

令和2年度 第2回 農業研究センター（本部）所長表彰 推薦者一覧

	所属		職	氏名	表彰区分	事績 該当号	事績の内容
1	企画管理部	研究 企画室	上席 専門研究員	○ 鈴木 元	グループ	第4号	<p><b>【先端プロ事業をはじめとする外部資金事業の適正・効率的な資金管理】</b>                      研究資金の約7割を占める外部資金事業、特に、いわゆる「先端プロ事業」や、イノベーション創出強化研究推進事業などの大型の委託事業において、委託元との調整、関係する部門との連携・調整を図りながら、適正かつ効果的・効率的な予算執行に務め、円滑に事業が推進されている。                      また、会計年度任用職員の制度発足に伴い、手当の支給など外部資金を活用する上での課題を調整・協議し、解決を図っている。</p>
			主査 専門研究員	長澤 睦			
			主査 専門研究員	阿部 敦			
			主任 専門研究員	土屋 淑子			
2	企画管理部	総務課	課長	山田昭人	グループ	第4号	<p><b>【コロナ禍に対応した感染症予防に配慮した業務の推進】</b>                      新型コロナウイルスの感染拡大危機に際し、職員への注意喚起や統一的な業務指示、衛生的な施設管理・会議開催マニュアルの策定など、未知の感染症に備えた全所的な体制を構築した。                      また、コロナ禍で各種イベントが中止されるなか、各種感染拡大防止対策を講じた新たな開催方式を検討・実施して、一般公開デーの開催し盛況のうちに実施するとともに、農業関係イベント開催の模範となった。</p>
		研究 企画室	主任 専門研究員	○ 土屋 淑子			
3	企画管理部	総務課	主任	○ 田村 絵美	グループ	第2号	<p><b>【北いわてプラットフォーム創造拠点整備事業における環境制御型温室の整備】</b>                      地方創生拠点整備交付金(R2補正)を活用し、県北農業研究所に環境制御型温室を建設することとなり、その調整・予算執行に急遽対応した。                      単年度で完了させるための情報収集・全体調整を行い、事業条件に沿った温室の仕様を策定し、また、花巻審査指導監等との綿密な打ち合わせや情報の収集などを行い、無事、施工業者との契約を締結した。                      契約後は、的確に中間指導など随時現場確認の調整を行いながら、県北研究所と連携して、順調に工事を進捗させ、当初計画どおり、2月末の完了が見込まれている。</p>
		研究 企画室	室長	高城 保志			

	所属		職	氏名	表彰区分	事績 該当号	事績の内容
4	企画管理部	総務課	主査	熊谷 和泉	個人	第4号	<p><b>【内部統制の推進及び会計事務等の適正化】</b>            総務課のチームリーダーとして、事務の適正化を推進したほか、昨年度スタートした内部統制の導入についても、農業研究センター独自の仕組みづくりを行うなど、円滑・効果的に事務の改善の取組を進めた。            こうしたことにより、監査についても平成29年度まで、2年連続で指摘を受けていたが、その後、3年間は指摘・注意がなく、適正な事務の推進に貢献している。</p>
5	生産基盤研究部	水田利用 研究室	上席 専門研究員	田村 和彦	個人	第1号	<p><b>【水田雑草コウキヤガラの防除対策及びほ場水管理システムの導入効果とりまとめに貢献】</b>            先端プロ(復旧水田)事業において、水田雑草の防除対策と水稻栽培におけるほ場水管理システムに関する2課題を試験研究成果としてとりまとめた。            研究成果「水田雑草コウキヤガラの効果的な防除対策」            研究成果「水稻栽培におけるほ場水管理システムの省力効果と節水効果」</p>
6	生産基盤研究部	生産システム 研究室	上席 専門研究員	藤尾 拓也	個人	第1号	<p><b>【低コストで耐久性の高い環境計測装置と複合環境制御盤FARMATEの開発】</b>            先端プロ(きゅうり)事業において、低コストで耐久性の高い環境計測装置及び、設定項目を必要最低限に絞り込んだ複合制御盤FARMATE(ファーメイト)を開発した。</p>
7	生産基盤研究部	生産システム 研究室	専門研究員	小原 あつ子	個人	第1号	<p><b>【高密度播種苗をはじめとする水稻栽培研究成果のとりまとめに貢献】</b>            「岩手県における水稻高密度播種苗移植栽培法」をはじめとする3つの試験研究成果について、中心となってとりまとめた。            研究成果「岩手県における水稻高密度播種苗移植栽培法」            研究成果「令和2年岩手県産水稻の生育経過の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析」            研究成果「令和2年7月下旬の一閑遊水地における水稻冠水被害の実態」</p>

	所属		職	氏名	表彰区分	事績 該当号	事績の内容
8	生産基盤研究部	生産システム 研究室	上席 専門研究員	吉田 宏	個人	第1号	<p><b>【耕盤均平技術及び高速高精度播種機利用の水稻乾田直播作業性能のとりまとめに貢献】</b>  先端プロ(復旧水田)事業において、耕盤均平技術及び高速高精度播種機利用の水稻乾田直播技術の2課題について、試験研究成果をとりまとめた。  研究成果「レーザ制御ロータリ耕起による耕盤均平技術の効果」  研究成果「高速高精度汎用播種機の水稲乾田直播栽培における作業性能」</p>
9	生産基盤研究部	作物育種 研究室	主査 専門研究員	小館 琢磨	個人	第1号	<p><b>【水稻の高速成分育種手法の考案と競争的研究資金の獲得】</b>  透過型近赤外分析計による水稻籾非破壊分析法とゲノム育種を統合した水稻の高速成分育種法を考案し、自らが研究総括者となり研究課題「チルド米飯ニーズと加工製造課題に即応する超多収低アミロース米系統の早期育成」を構築。イノベーション創出強化研究推進事業応用研究ステージに応募し、採択された。</p>
10	生産基盤研究部	作物育種 研究室	専門研究員	藤岡 智明	個人	第1号	<p><b>【水稻育種におけるゲノム情報を活用した選抜体制の構築と実践】</b>  水稻品種育成の過程において、当センターでは未整備であった遺伝子情報処理ソフトウェアを導入してDNAマーカー作成に必要なプライマーデザインを自前で行うとともに、マニュアルを作成して日常のかつ効率的にDNAマーカー選抜が行える体制を作り上げた。</p>
11	生産基盤研究部	作物育種 研究室	主任技能員	佐藤 洋貴	個人	第3号	<p><b>【技能員としての長年にわたる農業試験研究への貢献】</b>  長年にわたり、技能員として本県農業試験研究の推進に尽力してきた。  業務の大半は畜産研究の支援業務にあっていたが、平成27年からは農業研究センター本部で農作物研究の支援業務にあたり、専門性の異なる、主要農作物の栽培研究、種子生産、品種改良という基盤研究の推進に大いに貢献した。</p>

	所属		職	氏名	表彰区分	事績 該当号	事績の内容
12	生産基盤研究部 生産環境研究部	生産システム研究室	上席 専門研究員	山口 貴之	グループ	第2号	<p>【県職員採用後に博士の学位を取得した者に対するアンケート調査及びとりまとめ】</p> <p>当センターでは、研究員育成プログラムに掲げる「研究員の意欲と能力を引き出す組織風土づくり」を推進するため「若手研究員育成サポーター」を設置している。</p> <p>候補者らはサポーター有志として自主的に、県職員採用後に博士の学位を取得したセンター内外の職員に対しアンケート調査を行い結果をとりまとめた。</p> <p>その内容は、取得前の投稿論文数、取得までの年数、費用といった基本的情報や研究の進め方など具体的なアドバイスなど、博士の学位取得を目指す若手研究員及び取得を支援する職員にとって有益なものであるとともに、当センター研究員育成プログラム改善への活用が期待される。</p>
		土壌肥料研究室	上席 専門研究員	○ 高橋 良学			
		病理昆虫研究室	主査 専門研究員	岩舘 康哉			
			主査 専門研究員	羽田 厚			
13	園芸技術研究部	果樹研究室	主査 専門研究員	高橋 藍	個人	第1号	<p>【りんご「大夢」の正品率向上のための摘果強度の解明】</p> <p>本県が育成したりんご「大夢」は11月上旬に成熟する赤色品種であり、大玉で果汁が多く、みつ入りおよび食味が良好なことから準奨励品種とし、特に沿岸部で栽培されている。</p> <p>しかし、着果量や果実の大きさによる果実品質や生理障害等、そして翌年花芽率への影響は明らかとなっておらず、安定生産上の課題となっていた。</p> <p>そこで、高品質な果実の安定生産が可能な摘果強度について検討した結果、摘果強度を1果/5頂芽程度とすることで、550gを超える大玉果の発生と、それに伴う障害果の発生が軽減されて正品率が高くなることを明らかとした。</p>
14	園芸技術研究部	野菜研究室	主査 専門研究員	田代 勇樹	グループ	第1号	<p>【小規模施設に適応した環境制御技術の実用化】</p> <p>平成30年から令和2年度まで、場内試験及び現地実証に取り組み、以下の研究成果および栽培マニュアルをとりまとめた。</p> <p>研究成果「小規模パイプハウスを想定したきゅうりの環境制御機器導入効果」</p> <p>小規模パイプハウスでも取り組める環境制御技術として、炭酸ガス施用機低コスト細霧システム、自動換気装置による導入モデルをまとめた。導入モデルでは総収量が最大約3割増加し、所得も約192千円/3.3a 向上する。</p> <p>「小規模施設での環境制御導入マニュアル(仮)」(令和3年3月公表予定)</p>
			技師	○ 佐藤 春菜			
		南部園芸研究室	首席専門研究員兼室長	漆原 昌二			
			主査 専門研究員	高橋 大輔			

	所属		職	氏名	表彰区分	事績 該当号	事績の内容
15	生産環境研究部	病理昆虫 研究室	上席 専門研究員	加藤 真城	個人	第1号	<p><b>【りんご園地における土着天敵保護によるハダニ類防除に係る3つの成果の提示】</b>  りんご栽培におけるハダニ類防除では、殺ダニ剤のコストが高いことに加えて、薬剤抵抗性が発達しやすく有効な薬剤も少ないことが問題となっている。候補者は、この問題を解決する試験研究に取り組み、本年度、ハダニ類の土着天敵であるカブリダニ類の保護を核とした防除技術に係る3件の研究成果をまとめ上げた。  これらの成果が指導資料に活用されることにより、現在、一部の生産者に留まっている土着天敵保護の取組の普及・拡大に貢献するものと期待される。</p>
16	生産環境研究部	土壌肥料 研究室	専門研究員	白木 正俊	個人	第1号	<p><b>【大豆・麦栽培における緑肥に係る研究成果及び大豆の土壌・施肥管理に関する情報発信並びにりんごの適正施肥に係る研究成果】</b>  大豆・小麦との輪作で生育量を確保できる緑肥作物を選定し、適切な作期を示すとともに、大豆における増収効果を明らかにして研究成果とした。  また、大豆栽培における土壌・施肥管理に係る研究結果を全国情報誌2誌に投稿し、広く紹介した。  りんごについては、これまで大まかな傾向として認識されていた品質と窒素施肥量の関係を明確化し、適正施肥量を示す研究成果を取りまとめた。  これらの成果は、大豆・麦の収量確保に向けた地力向上対策、りんごの品質確保のための適正施肥の指導に活用され、各作物の収量・品質向上に寄与することが期待される。</p>
17	生産環境研究部	土壌肥料 研究室	専門研究員	小田島芽里	個人	第1号	<p><b>【稲作のコスト低減と効率化に資する可変追肥技術及び水田の施肥管理に係る複数の研究成果】</b>  稲作において収量・品質を安定的に確保しつつ、コスト低減や作業の省力化・効率化に資する以下の3つの研究成果をとりまとめた。  研究成果「水稻栽培に対する可変追肥技術の特徴」  研究成果「補給型施肥による収量および土壌科学性の経年変化」  研究成果「水田における稲わらからのカリ溶出と土壌中へのカリ供給効果」</p>

	所属		職	氏名	表彰区分	事績 該当号	事績の内容
18	病虫害防除部	病虫害防除課	主査	吉田 雅紀	個人	第1号	<p><b>【コムギ条斑病発生リスク要因解析から田畑輪換が最も重要であることを解明し指導】</b>          県中部の「ゆきちから」を中心にコムギ条斑病が発生したが、発生圃場を中心に、条斑病の発生と作付け来歴等を元に統計解析し、発生リスク要因が①作付け年数、②前作でのイタリアンライグラスの発生有であることを解明した。          コムギ条斑病の防除対策として田畑輪換が効果的であることを令和2年度病虫害防除技術情報として取りまとめて公表した。</p>
19	病虫害防除部	病虫害防除課	技師	○ 福田 拓斗	グループ	第1号	<p><b>【ネギハモグリバエ新系統がねぎ出荷葉で問題となる葉枯病(黄色斑紋病斑)の発生に関与することを確認し、防除対策を指導】</b>          今年度、新たに発生を確認した「ネギハモグリバエ新系統」が県中部で広く発生していること、県南部では発生がみられないことを明らかにした。          また、本虫の潜葉痕上に、葉枯病(褐色斑点病斑)の病原菌が感染し、病斑が拡大していること、その近隣株で、黄色斑紋病斑が多数形成されることを確認した。          これらを令和2年度病虫害防除技術情報として取りまとめ、産地に情報を提供した。</p>
			主査	吉田 雅紀			
20	病虫害防除部	病虫害防除課	課長	○ 勝部 和則	グループ	第2号	<p><b>【病虫害発生予察・防除指導により農作物生産の安定を支援】</b>          令和2年度、病虫害発生予察情報「注意報」(9件、前年比6増)、防除速報(15件、同4増)等の情報発行と適切な防除指導を実施。          また、情報伝達はインターネット上に公表するだけでなく、電子メール配信及びマスコミをも巻き込んで精力的に実施(マスコミ掲載42件、前年比39増)。なお、会計年度任用職員2名も発生予察調査及び解析の主力として活躍し、調査した8作物108病虫害のうち、発生「多」は6作物15病虫害に留めることができた。</p>
主査	吉田 雅紀						
会計年度任用職員	小野寺政子						
会計年度任用職員	高橋 愛						

※1 表彰区分欄には、実施要領第2第2項に掲げる表彰の対象となった「職員等」の区分に応じて、次のとおり記載すること。

実施要領第2第2項第1号該当：個人

実施要領第2第2項第2号該当：機関

実施要領第2第2項第3号該当：グループ

※2 グループの成果に対し、中心的な役割を果たした者は、氏名の前に◎をつけること。

※3 該当号欄には実施要領第3各号のうち該当するものの号数を記載すること。

※4 必要に応じて、事績の内容に関する資料を添付すること。